的には誤である。著者が強て重心水位集結說を固執する必要がありとするならば"近似的"なる字句を特に用ゆる必要がある。尙著者は御回答文の最後に貴論說の目的が調整池諸問題に及ぼす耐壓水路內摩擦抵抗の影響の程度算定に在ると殊に斷はられてゐるが，筆者の討議の主旨も勿論この著者の目的達成に大なる影響を有するものなることを附加へて置き度い。卽ち K の値は調整池の水位の變化ばかりでは無い，耐壓水路內の摩擦抵抗に依る損失水頭により著しく變化するからである。筆者の討議に於ける K の値の變化は總て之の兩者を合せ考へた所謂有效落差に就て論じてゐるのである。

著者 會員 工學士 松 野 辰 治

榎本君の論難は要するに見解の相違に基くものと思惟される。著者は前回の回答で十分其意を盡したと思ふから此上揚足取りの論議を繰返して貴重なる本誌面を冒瀆する事を欲せぬ。